



ハナーンチョコレート

Hanan Chocolate

※「ハラール」とは
イスラーム教徒による飲食や使用が
「許されたもの」という意味です

東京大学では、最近話題のハラール認証マーク入りの
チョコレートの販売を開始しました。なぜかというと・・・

- イスラーム教やハラールについてもっと知ったり考えたりするために。
- 世界の人々がこれからもずっと一緒に食卓を囲み続けられるように。



イスラーム教ってなに？

私が答えます

後藤絵美 ごとう えみ

東京大学

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク 特任准教授

東洋文化研究所 准教授



イスラームとは神に身をゆだねること

イスラームとはアラビア語で神に身をゆだねることを意味します。ムスリム(イスラーム教徒、「イスラームをする人」という意味)にとって、神とは世界を創造し支配する唯一で絶対的な存在です。7世紀のアラビア半島で、ムハンマドという名の預言者*を介して、神の言葉が人間に伝えられたと信じられています。神の言葉はクルアーン(コーラン)とよばれる書物のかたちで現在まで残されています。

*預言者…神の言葉を預かった人

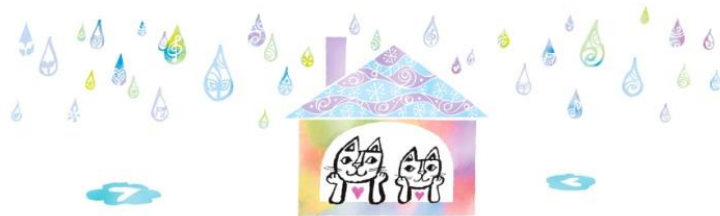
イスラームの意味は一つでも、そのとらえ方は一つではない

神に身をゆだねるとは具体的に何をすることなのでしょうか。世界には十数億のムスリムがいると言われています。さまざまな土地のさまざまな環境の中で、それぞれに異なる生活を営むムスリムの人々ですが、彼らが共通して信じたり、大切に思ったりしていることがあります。神の存在や、預言者の存在、クルアーンが神に由来すること、来世で人は神の裁きを受けることなどです。一方で、文化や社会の違い、個人の考え方の違い、そして、時代によるそれらの変化によって、神が人間に何を命じているのか、何を望んでいるのか、その理解が異なってくる場合もあります。どのような服装がよいのか、何を食えることがよいのか、どんな暮らしをすればよいのかなど、同じくムスリムと呼ばれる人々の間にも、考え方や行動に違いや変化がみられます。

多様な理解や実践も含めてイスラーム教

こうした多様な姿を含めてイスラーム教だということができます。ところが最近、これとは逆の主張が頻繁に聞かれるようになっていきます。ムスリムのあいだでも、ムスリム以外の人々のあいだでも、「イスラームとはこういうものである」「ムスリムとはこういう人々である」という、規範的なとらえ方が広がりつつあるのです。そしてこの動きは、現代世界にさまざまな摩擦を生み出しています。ここで注目する「ハラール」もまた、こうした流れと関係があると言えます。

ハラールってなに？



ハラールとはアラビア語で「許されたもの」という意味

ハラールとは「許されたもの」という意味。対になるのが「禁じられたもの」を意味するハラームという言葉です。イスラーム教の文脈では、ハラールは神によって許されたもの、ハラームは神が禁じたものということになります。神が何を許し、何を禁じたのかは、通常、クルアーンなどの宗教典拠をもとに判断されます。たとえば、クルアーンの中にはこんな言葉があります。

人々よ、地上にあるもののうち、許された清浄なものを食べなさい(2章168節)。

神があなた方に食べることを禁じたのは、死肉、血、豚肉、神以外の名のもとに屠られたものだけである。ただし、故意に違反したのではなく、また法を越えず必要に迫られた場合は罪にはならない。神は寛容にして慈悲深いお方であられる。

(2章173節)

本当に悪魔は酒と賭博によって人々の間に敵意と憎しみを引き起こし、神の唱念と礼拝から人々の心をそらす。

(5章91節)

こうした言葉から、ムスリムは「死肉、血、豚肉、神以外の名のもとに屠られたもの」を食したり、「酒」を飲んだりすることは、神によって禁じられていると判断し、それ以外の「許されたもの」や不浄ではない「清浄なもの」だけを摂取したい、用いたいと考えます。ただし、実際に何を避けるのか、どの程度こだわるのかは、人によって異なります。たとえば、アルコール分を含むものや豚に由来するもの、豚に触れた可能性のあるものを、禁じられたものや不浄なものとしてできかぎり忌避する人もいれば、アルコール飲料や豚肉そのものの飲食だけを避けているという人もいます。さらには、慣習や個人的な理由から、内容物にはそれほどこだわっていないというムスリムもいます。

ハラル認証ってなに？



ハラル認証とは

諸団体や諸機関が食品や飲料、物品、サービス等について審査し、それが「ハラル」であることを認めた際に出されるものです。現在、世界各地に異なる認証機関や認証制度があります。マレーシアやシンガポールのように、政府系機関が認証を行っている場合もあれば、複数の団体・機関がそれぞれ独自の基準で審査を行い、認証を発行している場合もあります。認証機関ごとに独自の認証マークを持っています。

実は新しい制度

ハラル認証が制度として発展してきたのはここ数十年のこと。ムスリムが圧倒的多数派を占める中東地域では、周辺の市場に出回っている食品や物品は基本的にハラルであると考えられてきたため、「ハラルであることを認証する」という発想はほとんどなかったようです。一方、多くのムスリムが暮らしながらも、同時に異なる宗教や文化が混在している東南アジア地域では、「どれがハラルか」という問いがつねに抱かれてきたようです。それが実際の制度として整備され始めたのは1970年代半ば以降のこと。食品や製品に関わる科学技術の進歩や、グローバル化に伴う人や物の流れの複雑化の中で、ここ10年ほどのあいだに、日本などムスリムが少数の地域を含めて、各地で採用され始めています。

認証取得まで

ハラル認証の方法は認証機関や制度によって異なりますが、多くの場合、事前の書類審査、現地調査（工場での検査等）、団体内での検討を経て証明書とマークの発行が行われます。審査には一定の期間と費用がかかります。また、認証には通常、1年か2年の有効期限があり、随時更新することが求められます。

認証制度の例

<マレーシア>

マレーシアでは、国内のイスラーム関連の事柄を扱う「首相府イスラーム開発局」が、科学技術革新省基準局制定の認証基準に基づいてハラール認証を行ってきました。認証基準は対象となる物品やサービスによって複数あります。食品・飲料・レストラン・屠畜場についてはMS1500: 2009と呼ばれる基準があり、化粧品・衛生用品はMS2200:2008が、医薬品ではMS2594: 2015が基準となっています（MSとはMalaysia Standardの略です）。

食品・飲料等にかかわるMS1500: 2009は、マレーシアの官公庁や政府系宗教機関、民間の生産者・消費者団体、教育研究機関が参画して策定されました。この基準には、ある食料・飲料が「ハラール」と認められるための条件として、原材料に禁じられた動物や不浄とされる動物の一部が含まれていないこと*、身体に悪影響がないこと、予備処理、製造、包装、貯蔵、輸送に際してハラール以外の飲食物から物理的に隔離されていること、食肉の場合厳密な屠殺方法によって処理されていることなど、多くの項目が示されています。

<日本>

日本のハラール認証機関は宗教団体の他、民間企業、NPO法人によって担われています。監査員や、依拠する外国の認証機関によって、認証基準は異なる場合があります。

※たとえば、ハナーンチョコのハラール認証機関であるNPO法人日本アジアハラール協会の場合、マレーシア政府系機関からハラールに関する講師資格を取得した監査員を置いていることや、シンガポールの宗教法人から認証機関としての認定を得ていることを特徴としています。

*MS1500:2009で混入が禁じられた動物

(1)ムスリムの屠畜・食肉処理者による適切な屠殺方法がとられていない動物、(2)不浄とされる豚と犬、(3)獲物を殺すための牙をもつ虎、熊、象、猫、猿、(4)鉤爪のあるワシやフクロウなどの鳥、(5)病原菌を運んだり、毒をもっていたりするネズミ、サソリ、ヘビ、(6)水陸両生のワニ、カメ、カエルなどです。

<「ハナーンチョコ」のハラール認証について>



ロック製菓吉村社長談

認証を受けるにあたり、チョコレートの原材料のうち、とくに砂糖と乳化剤について、ハラールである証明を取ることに手間がかかりました。砂糖を製造する過程で、動物の骨炭を使用する事が多いのですが、これを使用しないで作られる砂糖を探すことに苦労しました。乳化剤は、動物由来でなく、大豆由来の物を使用しています。

ハラール産業の問題点

グローバル化が進み、人や物の往来がこれまで以上に盛んになっている今、それぞれの人の宗教的な心情や文化的な違いに配慮して、誰もが安心して食べられる食品や、利用できる物品を準備し、提供することはとても大切なことでしょう。とくに日本のようにムスリムが少数派の国でも目の前にあるものがハラールかどうかが一見してわかるとすれば、外国から訪れたムスリムにとって便利なはずで、商品やサービスを一定の基準によって認証したり、マークをつけたりするハラール産業には問題点もあります。

一つは神によって「許されたもの」が明文化され、標準化されることで、これまで許容されてきた多様なとらえ方が否定されてしまうことです。もう一つは、ほとんどの場合、**認証基準が詳細に設定されている**ことです。

厳密な基準を設定しておけば、それに達したものは安心してハラールと呼べるという考え方があるかもしれませんが。しかし、ムスリムの食や生活に関して、細かなルールが神の名のもとに設定されてしまうといった何が起こるでしょうか。**人々の意識や行動が均一化され制限されること、認証の有無に頼る人やこだわる人が増えて「ムスリムとそれ以外」という線引きが明確化することが懸念**されます。

「許されたもの」の明文化・標準化

イスラーム教の文脈でハラールとは神によって許されたもののこと。神の意思に従って生きたいと願うムスリムの人々にとって、何がハラールかという問いは重要です。これまで、この問いは、人々の日々の生活の中で、それぞれの場面に応じて答えが求められてきました。その結果、個人と神との関係性の中で多様な答えが生まれ、その状況は、ほかのムスリムからも許容されてきたのです。ところが、ハラール産業では、特定の団体や機関が答えを一つに規定し、それを文章化することで、何が「許されたもの」かを標準化しようとしています。

詳細な認証基準の設定

ハラール産業の認証基準はしばしばごく細部にまで言及しています。また、その傾向はしだいに強まっています。たとえば、クルアーンでは、豚肉が「禁じられたもの」の一つに数えられていますが、ハラール認証機関の多くでは、豚肉だけでなく豚由来の成分を含むあらゆるものの禁止を明言しています。その場合、原材料だけでなく、製造過程に用いられるものや、輸送ルート、保管先にも、「豚の気配」が一切ないことが条件の一つとなっています。近年、内容物が何由来かがDNAのレベルでわかるようになりました。科学の進歩とともに、審査はより細かい部分まで、徹底的に行われつつあります。

危惧されること

人々の意識や行動の均一化と制限

認証基準が標準化すると、ハラールに対する人々の意識や行動も基準に沿うかたちで均一化し、基準から外れた考え方や行動をとることが難しくなります。食品や製品が厳密な認証基準を満たしているかどうかは、高度に専門的な審査によつてのみわかるのですから、人々はやがて自ら考えて判断するのではなく、認証マークの有無だけに頼るようになるでしょう。

「ムスリムとそれ以外」という線引きが明確化

こうした状況があたりまえになると、とくに若い世代の間などで、ハラール認証マークのあるものだけが「安心できるもの」になり、それ以外の食品や製品は「安心できないもの」となっていくことが考えられます。「ムスリムが安心して食べられる物はこちら」「安心して暮らせる空間はこちら*」。そんなふうに、ムスリムとそれ以外の人びとのあいだで、食卓や生活が分断されていくことが考えられます。「ムスリムの人ハハラール認証を受けたものしか食べられない」「ムスリムじゃない人はハラールの食べ物を準備しない、準備できない」だから、招待するのはやめよう、遊びにいくのはやめよう。一緒に過ごすのは無理だ。そんなふうに、人びとの食卓や生活が分断されていくことが懸念されます。



そんなことが起こらないように、
これからも共に暮らしていけるように
私たちはいったい何ができるでしょうか。

* ハラール認証を受けた商品だけを扱うハラール特区や、それだけを運ぶためのハラール・ハイウェイをつくろうという案も検討されているそうです。それが実現すると、物理的な分断が本格的に始まっていきます。

❀ 未来のためにできること ❀

それを一緒に考えていくために立ち上げたのが、この「ハナーンチョコ・プロジェクト」です。

ハナーンとはアラビア語で「思いやり」や「やさしさ」という意味。この甘いチョコレートを、人々の「分断」のきっかけではなく、「思いやり」のきっかけにしたい。そのために、どんなアイデアがあるでしょうか。皆で考えて、思いついたことを共有していきましょう。

「ハラル」という言葉を使うのをやめる
ハラルとは神によって「許されたもの」という意味。でも実際に基準をつくったり、それに沿っているかを判断するのは人間。だから、この言葉を使わない。そうすると、人々の意識や行動の均一化や制限に「待った」をかけられるかもしれません。

マークの代わりに成分表示を多言語で
ムスリムの多くにとって、中に何が入っているかは気になるはず。ならば成分表示をもっと詳しくしてはどうでしょう。英語表示もあると親切ですね。パッケージに情報を掲載するための十分なスペースがないようならば、QRコードでリンクを貼るかたちには？

「ハラル認証マーク」とは別の印をつける
「Alcohol Free」「Pork Free」「Slaughtered using Muslim methods」などのマークがあると安心する人もいるかもしれませんが。ただ、このマークの意味を標準化したり、マークをつけるための認証基準を定めたりすると、ハラル産業にまつわるものと同じ問題が起こります。

一緒に知ろう、一緒に考えよう

イスラーム教やハラルに関するワークショップやセミナーを随時開催しています。

学校や企業等での出張講義についてもご相談ください。

連絡先：後藤絵美（ごとうえみ）

emi-gto@ioc.u-tokyo.ac.jp

東京大学コミュニケーションセンター(UTCC)開発商品「ハナーンチョコレート」

ご購入は東京大学コミュニケーションセンター(東京大学本郷キャンパス内)

IMTブティック(JPタワー・インターメディアテク内)にて

チョコレートの箱には葉書が1枚入っています(全4種類)。

メッセージカードとしてご利用ください。「思いやり」を家族や友人に広げるきっかけにどうぞ。(イラスト:おかべてつろう)

